

2026年度 日本晴栽培ごよみ【移植】

月旬別	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月	11月~		
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬			
時期			育苗期		田植期	活着期	有効分げつ期		無効分げつ期		幼穂形成期		出穂期		登熟期		収穫期	土づくり	農閑期		
水管理	 耕起		代掻き 田植え			浅水管理で分げつ促進 中干し			幼穂形成期から飽水管理による 徐々地固め		幼穂形成期から飽水管理による 徐々地固め		幼穂形成期から飽水管理による 徐々地固め		幼穂形成期から飽水管理による 徐々地固め		収穫	土づくり	稲わらの鋤き込み 作土深15cm以上		
施肥	土づくり  ミネラルPK 60kg/10a		育苗  くみあい床土			基肥 一発肥料の場合  日本晴688 40kg/10a			分施の場合  新エコ元肥 45kg/10a		ケイ酸質資材 けい酸加里 20kg または カリ投げくん 200g×20個		分施の場合 1回目の穂肥(幼穂長2mm) 2回目の穂肥(1回目の10日後)  こだわり追肥570 15kg/10a		こだわり追肥570 15kg/10a		 土改材散布				
農薬	育苗  ダコニール1000		除草剤(1回目)  スタウトアレス モンガレス箱粒剤			除草剤(1回目)  クサウェポン粒剤、ゼータジャガー粒剤、 セイテン粒剤			除草剤(2回目)  クリンチャー粒剤		除草剤(2回目)  ゲパード粒剤		カメムシ防除(1回目)  エクシード粉剤DL		カメムシ防除(2回目) 個人防除の場合  アルバリン粉剤DL						

①育苗 ②田植え ③田植え後 ④中干し前後 ⑤登熟～収穫期 ⑥収穫後、農閑期

- くみあい床土を使用
- ダコニール1000 500倍～1000倍 0.5ℓ/箱
- 播種量は140g/箱
- 播種時または移植当日にスタウトアレスモンガレス箱粒剤50g/箱
- 代掻きから田植えまでを短く
- 3～4本/株で植える
- 栽植密度は50株～60株/坪
- 日本晴688 40kg/10a
- (分施の場合) 新エコ元肥45kg/10a
- クサウェポン粒剤 1kg/10a
ゼータジャガー粒剤 1kg/10a
セイテン粒剤 1kg/10a
- 5cm程度の浅水管理で分げつを促進
- 除草剤散布(2回目)(ヒエとりこぼし用)
クリンチャー粒剤 1～1.5kg/10a
または
(ヒエ+多年生広葉雑草) ゲパード粒剤1kg/10a
- 莖数は25本～30本/株
- 分施の場合
穂肥1回目(幼穂長2mm) こだわり追肥570 15kg/10a
穂肥2回目(1回目の10日後) こだわり追肥570 15kg/10a
- カメムシ防除1回目
エクシード粉剤・フロアブル
カメムシ防除2回目
アルバリン粉剤
スタークルメイト液剤など
- 胴割米対策として収穫直前まで飽水管理による
徐々地固め
- 適期刈取(籾水分25%以下、
青籾割合10～15%)
- ケイカル500kg/10a、または
しきぶホワイト100kg/10a散布、
耕起し稲わらの分解促進